

日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No.52
2010-9-25

일한 시민 네트워크・나고야

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

目次	1. 事務局通信	統括幹事：後藤和晃
	2. ニュース	鄭煥麒名誉会長
	3. 会の活動	事務局
	1) 光州学生訪問団受入	光州学生・ホストの皆さん
	2) 栄光の百済残影紀行	参加者の皆さん
	4. お知らせ	事務局
	5. ソウル便り	坂野慎治

사무국통신 事務局通信

交流の火花 煌めく ～ 光州訪問団を迎えて ～

事務局 統括幹事：後藤和晃

8月8日の夜、名古屋韓国学校では光州学生訪問団を迎えてのパーティが大きな盛り上がりを見せていました。出席していた光州の学生たちも、私たちの会員も、それぞれの思いが100パーセント通いあっているかのような、いい雰囲気になっていました。

かつてないほどの交流感をかもし出してくれた功績者は、訪問団を空港で迎え、1泊2日の奈良旅行の間、通訳業務に打ち込んだ3人の韓国人留学生と1人の日本人の若者でした。留学生はいずれも名古屋大学で学んでいるイ・ソンミン（名大韓国人留学生会長）、ホ・ギョング、イ・ジョンベの3君。日本の若者とは旅行社に勤めている山田雅樹君です。彼らは奈良旅行の2日間、光州の学生たちと寝食を共にし、いろいろな場面で通訳を行うだけでなく、日本や日本人に関する質問に適切に答えてくれていたのです。

彼らは8月8日の交流の夕べでも交代で通訳の仕事を見事にこなす一方、一出席者として交流の輪に参加していました。こうした4人の働きに加えて、顧問の李尚勳さん、協力者の金龍鐘さん、それに韓国語にそれなりの自信を持っている会員たちが、交流団との対

話を大いに盛り上げていたのです。

韓国学校での“交流の夕べ”が終了した後も、交流の火花は場所を移して煌めき続けました。訪問団員のほとんどとそのホスト、それに留学生など総計20人近くが、会の顧問の鄭煥麒さんが経営されているビルに移り、遅くまでカラオケで最後の交流を楽しんだのです。訪問団の女性団長、パン・スギョンや光州YMCAの職員で中日に在籍したソン・ドンヨル選手の親戚というソン・ユンホンさんの歌声もすばらしいものでした。光州グループの歌唱力には圧倒される感じもありましたが、日本側も中川幹事や山田雅樹君らが十八番の韓国ソングを披露して盛大な拍手を貰いました。

時ならぬ日韓ノレハプチョン（歌合戦）が光州の学生たちの記憶に残ってくれるといいなと思ったものでした。なお、今回の光州訪問団の来日にあたり、会員の皆さんなどに寄附金をお願いした所、会員ではない方々を含め、のべ43人の方から26万円余りの大金を寄せていただきました。心から御礼を申し上げると共に、実施行事を報告するコーナーでお名前を紹介させていただきます。



「鄭煥麒博士記念室」大学に完成！
鄭煥麒名誉顧問

※韓国晋州市にある国立晋州教育大学校はこのほど「永年、寄付を続け、学生への奨学金支給や教育施設の整備などに献身的に貢献された」として会の名誉顧問である鄭煥麒琥珀会長の記念室を設置公開しました。関係者の寄稿で紹介します。

先生は 1924 年、今の晋州市で生を享けた。3 歳の時、母に手を引かれ晋州を後に玄界灘をわたり来日した。一日一日やっとの思いで暮らす日本での生活。そんな厳しい環境の中で育った鄭先生は、歴史の激動にもまれながら長ずるに及び衣類の販売業、機械製造業、飲食業、大衆娯楽業、運輸業を次々に創業し実業家として大きく成長された。一方、在日同胞が民族精神を失っていくのを憂慮して、名古屋韓国学校を設立された。また、在日同胞のために金融機関を立ち上げ、さらには在日韓国人たちが共産主義思想に染まらないよう愛知県大韓民国民団の結成に主導的な役割を果たされた。先生の随筆集に意味深い一節がある。「お金を使いたくても無ければ使えない。無い袖は振れぬ」という諺がある。人はどんなに財産を持っていても、単に所有しているだけでは意味がない。お金を儲けさせてくれたのは世の中なのだから、あの世に持って行くより、この世に還元する方が道理にかなっている。儲けることより使うことの方がもっと難しい。お金の使い方しだいで、その人の人格が決まる」。この考え方に先生の人生観、哲学をうかがうことができるのではないだろうか。実践と経験に基づく人生を歩まれた先生は、より一層母国の発展に対する深い想いを抱かれたことであろう。国立晋州教育大学校のご自分が主宰する学術研究財団の基金増強に 10 年余りにもわたって、たゆまず努力されてきたことも、こうした情熱の表れの一つである。

ともかく、先生は隣人のため、社会のため、祖国のために持っているものを分け与えることは当然のことと思われているようだ。韓国は資源が乏しい国であるため、技術者養成すなわち人材の育成こそ最優先課題として教育に原点をおかなければならないと考えられている。偉大なる実業家である先生は深い洞察力と強い愛国心をもち、人間味溢れる人である。このことは、これから先生に接する人たちの誰しもが認めるであろう。(創志学園 教育顧問：金谷鎬二さん)



晋州市長から賞を受ける鄭煥麒名誉会長



会員の松山純子（李純子）さんの記事が

2010 年 8 月 23 日の中日新聞 2 面に掲載されました。

在日二世の焼き肉店経営松山純子さん

愛知県一宮市は書の現代版の翻訳に取り組み、名古屋の NPO 法人も 11 月に国際シンポジウムを開く。朝鮮籍だった松山さんの父も母も日韓併合に伴う日本の植民地支配下、創始改名で日本名を名乗った。「大変だったと話すだけで多くを語ろうとしなかった」日本で生まれ育った松山さんに両親が口にしたのは郷土料理の話。松山さんは「庶民でも手に入る山草で病気を治す姿に感動し食や健康を通じ庶民士で交流をしたい」以下略



会の活動

- 光州学生訪問団の受入れの実施
- 栄光の百済残影紀行の実施

1) 光州学生訪問団の受け入れ

- ① 訪問団 パン・スギョン団長ら 12 名
- ② 訪問団スケジュール

8月5日(木) 11:00 セントレア着——バスで奈良法隆寺へ～奈良ユース泊り
 6日(金) 9:00 平城京跡・大極殿などを見学～東大寺・二月堂・三月堂・大仏殿見学～名古屋へ～18:00 国際センターでホストと対面ホスト宅泊り
 7日(土) 全日ホストと自由行動
 8日(日) 午後4時まで自由行動(希望者は徳川美術館見学)
 ～17:00 韓国学校で交流の夕べ ホスト宅泊り
 9日(月) 午前10時ホストとセントレア集合～12:00 セントレア発

特記事項

8月5日に法隆寺では高名な管長大野玄妙さんが一行を迎え、法隆寺の成り立ちの際には、百済や高句麗の僧たちの献身的な働きがあったこと、自分たちはこれらの大先輩の恩を忘れず、今でも供養を続けていることなどを話していただきました。また翌6日には一行は、東大寺を訪問しましたが、前執事長の筒井寛昭さんのご配慮で、大仏の膝の所まで上げていただき、銅製の蓮花の台座に精緻に掘り込まれた仏の三千世界を見たり、所々で鈍く光る黄金を吹きつけた跡に手で触れることもできました。法隆寺、東大寺のいつもながらのご協力には、心からの御礼を申し上げます。

● 会計報告・寄付

2) 訪問回に対する接遇・支援費用(寄付金より充当)

収入	寄付金 残	210,087	支出	奈良旅行経費	227,834	※不足金は会費より充当
				反省会	4,000	
	計	210,087		計	231,834	差引不足高 -21,747

顧問・協力者	氏名	寄付	氏名	寄付	氏名	寄付
	匿名希望	100,000	伊藤 義郎	5,000	須田奈保美	1,500
	伊 大辰	5,000	井ノ口俊子	10,000	瀬尾 文子	3,000
	李 尚勲	10,000	大久保孝造	5,000	成 功	5,000
	金 龍鐘	5,000	大嶋 明	3,500	田口 良浩	5,000
	小計	120,000	太田 道子	3,000	竹中志保美	2,000
	合計	261,000	岡崎 洋子	3,000	土田 隆夫	2,000
			岡村 成二	2,500	土本美恵子	3,000
			加藤 勝	2,500	長澤 進	6,500
			神谷 良子	2,000	長田 竹子	3,000
			倉知 義泰	3,000	匿名希望	2,000
			小出 宣昭	5,000	野村 哲	5,000
			小坂井多恵子	3,000	野村 博司	5,000
			後藤 和晃	5,000	原 和夫	3,500
			堺澤 一生	3,000	松山 純子	10,000
			佐々木英之	5,000	安田 守	5,000
			佐藤 昭子	1,500	山田あき子	3,000
			鈴木 一字	3,000	山本 玲子	1,500
			鈴木幸之助	10,000		
			小計	75,000	小計	66,000

皆様のご協力のお陰で
光州学生団の奈良旅行が
できることになりました。
ありがとうございました。
감사합니다~



● 光州学生訪問団に参加した学生たちの感想文 「光州学生訪問団」に参加して

선윤홍 (ソンユンフン)

まず日韓市民ネットワークの文化交流の参加者に新しい体験とホームステイを通じて互いに違う文化を全身で感じながら体験できる機会を頂き神様に感謝と光栄を捧げます。

8月5日 (木曜日)

朝 6 時頃仁川空港に到着して旅行中の注意事項を確認した。仁川から名古屋までは約 1300km、飛行機で約 1 時間 30 分の航路だ。

名古屋に到着して出口に出て行くと私たちを歓迎する後藤和晃さん、鈴木幸之助さん、山田雅樹さん、そして名古屋大学の韓国留学生イソンミン(23 才、国費奨学生、工学科)ホ・ギョング(22 才、留学生、日本文学科)イジョンベ(28 才、留学生、観光学)が私たちを歓迎してくれた。

私たちは案内を受けて 25 人乗ミニバスに乗り奈良へ向かった。

名古屋から奈良までは約 240km、約 3 時間。

最初に到着した所は“法隆寺”というお寺(6 世紀～8 世紀始め)であるが日本最初(1993 年 12 月)の世界文化遺産であり木造建物では世界で最も古い木造建物であると広く知られている。

現在この寺には日本の国宝および重要文化財で約 190 種類、2,300 点余りに達しているという。

皆、疲れも見せず一日の日程を終えユースホステルで体を休めることにした。

疲れを見せない若い学生達は好奇心と才能を遺憾なく発揮し夜遅くまで過ごした。

8月6日(金曜日)

朝御飯を食べて平城宮(約 1300 余年前日本天皇の古跡地域を約 1 時間見学して東大寺(約 1300 余年前百濟によって伝えられた仏教文化の象徴的な寺であり百濟人の技術陣らが作った日本最大の寺で最も大きい仏像を祭った寺である。特別の計らいで私たちは韓国学生という名分で一般客には入れない所を住持僧侶が仏像の前で詳しい説明をして頂きより一層多くのことを知ることが出来た)を最後に名古屋へ戻って来た。名古屋城を一めぐりして名古屋国際交流センターで各ホームステイに会った。

8月8日(日曜日)

名古屋駅で全員集合して“徳川美術館”を訪問した。芸術はわかっているつもりだが私には理解力が少し不足している様だ。

そして私たちは名古屋韓国学校で市民ネットワークなごやの会員たちが準備した文化交流の晩さん会に参加して素晴らしい自己紹介とホームステイの感じた所感を述べた後おいしい料理と共に親善交流を始めた。

歓迎辞、答辞、激励辞を終えて楽しい晩餐会の始まりだ。全部立ち上がり韓国語の“アリラン”をバンスギョン団長の伴奏に合わせて韓国語と日本語で歌い、そして私のハーモニカ独唱とアリランの独唱でより一層意味深い交流であり、感動と感激の 2 時間かけた文化交流を終えた。そして各自家へ帰ったが若い学生たちはカラオケの文化交流も体験できたそうです。



8月7日(土曜日)

特に私にとってとても素晴らしい出会いを与えてくれたことを神様に感謝したい。

その方は私をホームステイで迎えて頂いた鈴木幸之助さんで先生でありながらもとても温かい気配りができる立派な方です。

初めて会った時、私は鈴木さん宅で失礼のない行動をしようと心配していたが鈴木さんの温かいもてなしにその心配は無用であった。私がクリスチャンであることに鈴木さん自身は仏教信仰だが大丈夫かと心配されている様子でしたが、人生の意味や文化を熱く語ってくれたことを心より感謝します。

また、私に信仰心とは何なのかを行動と実践を通してこの交流に臨んで下さった。

特に鈴木さんが“豊臣秀吉”は名古屋の 3 代英雄として知られているが韓国歴史を勉強していると韓国に対して申し訳ない思いを感じると言いながら個人的に許しを請うといわれた時、私はどのように表現すればよいかわからない程感銘を受けました。

“豊臣秀吉”はその当時の朝鮮の陶磁器の大部分を日本で搬出したとし鈴木先生の謝罪の

意味として当時朝鮮の生活器形状をまねて作った器を答礼贈り物で下さった。

そしてご高齢にもかかわらず、韓国歴史、文化を勉強しようと数多くの歴史ドラマをご覧になり色々と私に質問をされたがドラマをよく見ない私としては慌てるばかりであった。

ドラマの主人公に対する履歴とドラマの時代的背景を私より多く知っていて科韓国人として反省をさせられた。

韓国歌謡(雨が降る湖南線. イバラ花. 花が咲く丘. 鳳仙花)民謡(アリラン)が大好きだと熱く語られる姿に私も見習わなければと思った。そして日本の文化をわかり易く教えて下さった。

私にとって今回の文化交流は今まで生きて

きた中で日本文化の多くのことを学ぶことができ私の胸の中の誤解を解くことができたという良い機会を与えて下さった。

日韓市民ネットワーク関係者の皆様、鈴木幸之助先生。すべてのホームステイを引き受けて下さった皆さんに心より感謝いたします。そしてこの文化交流が長く続いてくれることを希望します。

今後このような行事がもっと頻繁に行われもっと日本の若い人たちも参加した日韓関係になればと思いました。

このような日韓市民団体の人達の努力が種となり韓国人と日本人の間に信頼と愛情が芽生えそして多くの実になる日が来ることを心から願っています。



최혜리 (チェ・ヘリ)

前から日本に関心があってこのキャンプに参加しました。噂には聞いていたが日本の街はとても綺麗だった。

色々な文化財を見物して我が国より保存がうまくいっているという気がしました。

そして色々な考え方を身につけることができるようになったと思いました。

その一つは「我が国の文化財にも関心を持たなくては」と思った。

ホームステイは思ったよりおもしろかった。

始めはホームステイの配分表を見ておばあさんが一人で受け入れてくださることを少し

心配をしました。

しかし、友人の方々もたくさん来られて楽しいホームステイ生活ができました。

国は違っても自分の本当のおばあさんのように準備して下さる姿を見て感動しました。韓国に帰る最後の日、家に早く帰りたい気持ちがありましたがいざ帰ってきたら何か物足りない気持ちに陥りました。

このキャンプは初めての日本であったが楽しい思い出だけ持ち帰ってそして意味深くて・・・また行きたいな～という気持ちになりました。

박영빈 (パク・ヨンビン)

こんにちは。私はサンテ（中川さん）の家でホームステイをしたパク・ヨンビンです。いままで外国には何度か行った経験があるので他国のことは少しは解っていたつもりでした。

ホームステイという文化は初めてなのと見知らぬ環境の中でうまく合わせて行くことができるかと心配していました。特にホストの家族との出会いに一抹の不安がありました。

しかしサンテ家族と一緒に過ぎず時間が長くなるほど、まるで私の家族のようになったみたいで居心地が良かった。

特に私たちのホストのお父さんはガールフレンドの話から始まり将来の希望に関する話まで多くの話ををしました。私と年齢差が 40 歳もあるのに、まるで同年齢

と話したように非常に有益で楽しい会話でした。

私は光州を離れて 3 年以上、ソウルでの生活をしているとこのような家族らとの暖かさが私には身にしみました。今回のホームステイ体験を通じて沢山の暖かさを感じることができて本当に良かったです。

今後も機会があれば、是非もう一度体験したい。そしてホームステイの経験がない他の友人にも奨めるつもりです。

今後も日韓市民ネットワークなごやと光州 YMCA との交流が活発に行われ再びこのような機会に接することができたらと思います。

本当に夢のようだったホームステイ旅行であったし、私たちのお父さんをはじめとするサンテ家族にも「ありがとう」と伝えたい。



장인빈 (チャン・インビン)

こんにちは今回、名古屋に行ってきたチャン・インビンです。

目的地に行くための準備をしている時から期待でワクワクでした。日本語がまったくできず言葉が通じないことで楽しく過ごすことができるかと少し心配しました。

でも幸運なことに友人が日本語を話すことができたので何の問題もなく過ごせました。

到着するとすぐに色々な所を見物しました。我が国の影響を受けた建物を見たりしてとても面白かったのですが日本の蒸し暑さには正直いってまいりました。ユースホテルに到着してシャワーをしようと浴室にいくと韓国と違う浴場がありました。お風呂に入って汗を流しすっかり疲労もとれました。通訳の兄さ

んたちとの話がとても面白くゲームしたり食事をしたりと楽しく過ごせることができました。ホームステイをして感じたことは親しさ清潔さそして心の温かさでした。

どこへ行くにも優しい笑顔での案内、いろいろと気を使ってくださりとても親切なことに感激しました。そして何より驚いたのは清潔さでした。

道路にゴミがない綺麗な街、そしてホスト宅のおばあさんが私を孫のように可愛がって下さいました。他の皆さんも私と同じように沢山の温かさを感じたと思います。

今度日本の方がおいでになる時は是非・・・我家に泊まっていただきたいと思います。ありがとうございました。

김 석 (キム ソク)

以前から行ってみたいと思っていた日本にとうとう行けることになりました。日本に行く前の思いと日本に行ってきた後の思いには大きな違いがありました。日本を知る前はただ良くないイメージだったのが今はとても良い国だなと思うようになりました。

韓国ではまだ日本のことを良くない見方をする人が多い。このような難しい環境の中において日韓市民ネットワークなごやが 10 年を超えて韓国人たちを招待してくださったことは本当に頭がさがります。

また、70 歳を越えた年配の方々が韓国語を話しているのを見て、私もあのような大人になりたいと思いました。

そして日本に対して私たちが余りにも無知であることを知らされました。

私のホストを引き受けた山田さんと家族の方々おかげでまるで自分の家のように気楽に過ごせました。

このような韓国と日本の関係が着実に続くならば両国がもっと良い関係になりよい競争相手になるだろう。



황보라 (ファンボラ)

名古屋に行く前はホームステイってどのようなものなのか考えるだけでウキウキしていました。仁川国際空港から名古屋に到着した時は心臓がドキドキしてとても緊張しました。空港に到着すると日韓市民ネットワークの方々が親切で明るく歓迎して下さいました。はじめはよそよそしくてぎこちなかったが名古屋の留学生たちの通訳のおかげで奈良の観光はとても暑かったが本当に楽しかった。良く知っていなかった百済などの歴史を日韓市民ネットワークの後藤さんが詳しく説明して下さいました。そして歴史に対して関心をもつようになった。また、私たちの質問にも親切に答えてくれました。奈良の観光が終わりいよいよホストに会いに行くことになりました。

そこでは岡村さんが歓迎して下さいました。韓国歌をファイルにして頂きとても有りがたかった。私はチミンとともにホームステイをすることになったが初めてのホームステイの経験なのでどんな方がホストになるのか本当に気になった。幸運にも親切で善良な方々で安心した。

私たちのホストは大家族だった。松原さん夫婦、リエちゃん、ユキちゃん、シン君とても温かい家族で私たちを歓迎して下さいました。本当にうれしかった。その翌日私たちが行きたかった温泉も行きました。盆踊りではリエちゃんと一緒に踊り良い友人になれてよかった。私たちにきめ細かな心配りをして頂きとても感激しました。交流パーティーではいろいろな方々に会って楽しく対話できました。私は日本を訪問したのは今回が3度目です。前は観光だけなので中国人と韓国人しか会えなかったから余り日本を感じる事ができなかったが今回のホームステイで日本をはっきりと捉えることができました。

次回は名古屋に一人で来て私のホストの松原さん家族やリエちゃんに会いに行きたい。帰って来てからもリエちゃんとはメール交換をしています。いつまでも長く続けたい。今回は日韓市民ネットワークの方々を通じてより一層多くのことを知ることになったし日本との親密な交流が今後もずっと続くことを願っています。

光州学生訪問団のホストの感想文

カラオケ文化交流

会員：鈴木幸之助

中日ドラゴンズの元クローザーソン・ドンヨル投手が親類というソン・ユンホンさんのホストをした。がっちりとした丸顔の体軀はソン・ドンヨル投手とそっくりで、趣味が球技なのも血縁なのかもしれない。



ソンさんは光州YMCAのスタッフで引率者として、団長を補佐しながらの訪問であり、何かと気遣いで大変であったと思われる。YMCAでは青少年の保護、非行化防止、更生などの施設の責任者であり、随所で誠実な振る舞いを目にして感銘することがたび

たびあった。また、啓蒙なクリスチャンで、食前のお祈りを欠かさず、私はいつも盃を持った手を慌てておいてわが身を恥じ入っていた。

ソンさんは人間関係の形成と文化交流が主目的の来日であったが、ホストとしてはあまり協力できなくて申し訳なく思っている。

自宅近くの神社とお寺をいくつか案内し、都合に合わせて神様と仏様をお参りしたり、神

社とお寺を利用する日本人の柔軟な信仰心を説明したが、どのように受け止めてもらえたか心もとない。ソンさんと人間関係と文化交流を一番深めたのは我が家での即席カラオケであった。ソンさんのハーモニカで、私の知っている韓国の伝統歌謡曲（懐メロ）の釜山港に帰れ、木嘯の涙、雨降る湖南線や愛のクレメンティン、蛍の光をほろ酔い気分で歌った。最近覚えたばかりの雨降る湖南線をハングルで歌ったとき、ソンさんが突然一緒に歌いだした。亡き御尊父の愛唱歌であったのである。アンコールに応じて、3番まで歌った。私にはソンさんのハーモニカが泣いているように聞こえた。

しめくり、さまざまなアリランを解説付きに熱唱してくれた。また、日本から学んだ梨農園を義父が営んでいることなど話に花が咲いた。歓迎会でのアリラン熱唱は彼からわれわれへの返礼であったのである。

ハングルができない私と日本語ができないソンさんが英語で話をするという奇妙な交流であったが、セントレアでは彼は「ありがとうございました。あなたは私の日本のお父さんです。」と私の手を握りながら日本語で言った。

私は「コマウオ、トマンナヨ」韓流ドラマで覚えたハングルをあわてて口ごもりながら彼の背中を押した。

楽しかった三日間

中川翔太（サンテ）

僕は、今までにホームステイの経験もないし韓国の大学生と話したこともありませんでした。今回ホームステイとして韓国からの大学生が家に来て頂くということで最初は「言葉があまり通じないのに大丈夫かなあ？楽しんでもらえるかなあ？」などいろいろな事が心配でした。しかし、イ・セギルさんとパク・ヨンビンさんは初対面なのに僕にとっても優しく声をかけてくれてとても温かい人達だなあと思いました。元々人見知りの性格で年下である自分は二人のお兄さんたちのおかげで自然と友達のように接することができました。また名古屋港水族館に行く途中、山田雅樹さんとの待ち合わせ場所がわからなくて時間がかかって迷惑をかけてしまいましたが、それでも兄さんたちは優しく肩をポンとたたいてくれて、自分は自然とホッとする気持ちになれました。自分が兄さんたちに気を使う立場にも関わらずむしろ僕のほうが面倒を見てもらっているのに飲み物までおごってくれました。他には魚釣りに行くことになって正直、喜んでくれるかなあ？と不安でしたが二人とも魚釣りが始めてなのにとっても楽しんでいるのが心から伝わってきました。たった三日間のホームステイでお兄さんたちが来るまでは心配ばかりしていたのにお兄さんたちのおかげで楽しく過ごせました。こんな僕でも人と触れ合う事はとても大切だということを肌で実感することができました。今回のホームステイは、僕にとって人との関わりの大切さや自分の足りないところなどたくさん学びました。思えば、この三日間で自分は内面的にも少し成長したと思います。ホームステイのおかげでとても貴重な経験を積むことができました。今回のホームステイを企画された多くの関係者の方々には感謝しています。本当にありがとうございました。

山田雅樹

今年、我が家にホームステイしに来てくれたのは金錫（김석）君。日本の日常生活に触れたいとのことで、あえて名古屋市内の案内を少なくして僕たちの普段の様子を見てもらった。結果的には薄っぺらな内容で彼には物足りなかったかもしれない。それでも彼は野球に興味があり、我々が応援している中日ドラゴンズの話で盛り上がったのは嬉しいことだった。高校野球の開会式も、日本全国から集まった 49 校の入場行進に見入っていて、「韓国ではこんなこと出来ないよ」と感心していた。

また、我が家で普段食べているものにも興味を持ってくれた。韓国のものとは違う、日本の味付け海苔やインスタントラーメン、納豆、梅干し（これは流石に抵抗があったようだが）。これらのものが、彼にはどう映ったのか。あらためて聞いてみたい。

そして、今回も奈良への 1 泊旅行に同行したが、錫君に限らず他のみんなも声をかけてくれたのは嬉しいことだった。また、ユースホテルでゲームをしながら杯を交わしたのは久しぶりのことで、天安で日本語教師のボランティアをしていた時のことを思い出した。ワールドカップで日本を応援してくれていた子や、祖母が従軍慰安婦だったと言う子など、色々話を聞くことが出来、刺激を受けた 2 日間だった。

二人の女子大生を迎えて

～ ウリヌン チングラン カッタヨ！ ～

会員：伊藤 みつ子

「家の机の上に手紙を置いてきました。韓国語だけ大丈夫？」

「ケンチャナヨ！ 辞書が有るから心配しないで！」と言って、4 日間のホームステイは幕を閉じました。

空港で見送ってから、何だか大きな仕事を成し遂げた後のような満足感でいっぱいになりました。

今回も引き受けて良かった！ 様々な事情はあったけれど辞退しなくて本当に良かった！ と思います。

8 月 6 日 夕刻 国際センターで ソウル女子大学の イ・セウム氏 と シン・ユソン氏を出迎える。どちらも元気潑刺とした今どきのお嬢さんのよう。自宅までの帰路、車で約 30 分。いつものように車中から質問攻めに遭う。大げさに言えば、韓国語との闘いの始まりでもある。でも、私が韓国人を好きなのは好奇心が旺盛で多弁、頭の回転が速いこと。普段無口な私が彼女らの質問に答えるだけでも会話が成り立ち違和感なく過ごせるのが不思議。事前に頂いた情報によると、イさんは O 型、シンさんは A 型だったので、今回のステイは年上で O 型のイさんがリードしてくれるのかな？ と想像していたが、彼女にはすでにナンジャ・チングがみえるらしく、おしとやかな乙女で、反対にシンさんは若者らしく積極的に「伊藤みつ子さん、ここは..？」と繰り返し尋ねてきた。高校生の時に第二外国語として日本語を学習したことが有るようで、日本語では何と？ にも関心を示した。夕食は主人を交えた自宅で、ローストビーフや春巻き、海老の天ぷらや夏野菜で冷製サラダ風に調理



して召し上がってもらおう。明日からの日程で食べたい物を聞くと意外にも先ず「ラーメン」と答え、続いて定番の「味噌カツ・手羽先・ひつまぶし・きしめん……」

ときた。ソウルでは今、日本のラーメン・チェーン店の評判が良いそうである。

8 月 7 日 9 時発 地下鉄庄内緑地公園駅で上司の所長任と待ち合わせ。今回のステイのお話をした時、自ら案内役を申し出て下さった。日本のお城がお好きだそうで、先ず犬山城へ向かう。天守閣から眺めた犬山市・長良川周辺の風情は絶景で彼女たちも喜んだ。城下で「抹茶」も体験。その後、ショッピングモール MOZO へ。セウム氏は天ぷらうどん、ユソン氏はラーメンを注文し、お互いに分け合って両方の味を体験。食後に「みつさんにアイスクリームを買ってさしあげます。何がいいですか？」と尋ね、二人で買ってきてくれる。その後お土産などを買いたい、とのことで 90 分程度を自由時間にした。私一人だったら、万一のことを考えてしまうが、そこはさすがの所長任。いざとなったら韓国語での館内放

送も可能だからかも。二人は結構吟味してお値打ちなお菓子や小物を買ってきた。名古屋に戻り、大須観音界隈散策後、名古屋城夏祭りに出掛ける。城内を所長任の日韓双方の歴史解説付きで見学後、境内で夕食。味噌串かつや手羽先、たこ焼にご満悦。盆踊りを見ていて「ゆかたっていいなあ、着てみたいなあ。」とユソン氏。実はゆかたを着せる計画を立ててはいたが、この猛暑。朝からゆかた姿では、とても参ってしまうだろうと控えていたが、ユソン氏のひと言に思い直し、帰宅後に着せて写真撮影もした。とても喜んでくれた。



8月8日 11時 ターミナルホテルの20階で韓国語教室の友人2名を交えて、5人でゆっくり昼食をとる。三年前に高麗大の学生さんがみえた時にも手伝ってもらった友人達だか、あの時から比べたら格段に会話力も向上し意欲的に話しかけている二人をみて嬉しくなる。持つべきものは友達で、あっという間に二時

間が過ぎる。午後は引率者に託し、交流会、そしてカラオケで最後の夜を惜しみなく歌い、飲み、踊って過ごす。

8月9日 早朝、出発してセントレアで朝食を。デッキの見えるバイキングレストランへ入ろうとした時、セウム氏が「ここは高いから、もっと安い所にしましょうよ！」と言ってくれたのには、びっくり。私達は4日間でこんな会話が出る程、親しくなっていたのである。結局、そこに入ったのだが、彼女たちの食欲に、またびっくり。朝は時間がないから朝食抜きが多い、といって少食のはずなのにさすがバイキングとなると二人とも三皿は軽く平らげていた。若い時の私みたいで、きっと割勘負けしないだろうなあ、と感心する。別れの時が近づいた。でも私達に涙は似合わない。また明日会えるかもね！というさらっとした感じで見送った。

二人から貰った手紙には、まるでラブレターのように甘くて優しい韓国語でぎゅぎゅ書かれている。どう振り返ってみても、ホストとステイヤーというよりは、私のことをいつも気遣ってくれた優しい二人のお姉さん、という雰囲気でした。ホームステイ受け入れ7回目の貫禄、といえば言えるのですが、本当に楽しくて思い出しても笑えてくることばかり。こんな面白いことを続けさせてくれる主人や上司、そしていつも喜んで手伝ってくれる韓国語教室のメンバーに心から感謝を申しあげる次第です。

忘れられない夏 岩下洋子

猛暑の夏、1人暮らしの我が家に、韓国の高校生の男女2人がホームステイにやってきました。チェ・ヘリさんは16歳の女の子。チャン・インビン君は17歳の男の子で、ふたりは同じ高校でクラスも一緒に仲よし同志でした。



まず、悩んだのは2人の部屋を分ける方法でした。彼らが来る前には、男の子を2階にすればいいと気楽に考えていたのですが、連

日の猛暑で2階の部屋は温室のようになってしまい諦めざるを得ませんでした。

同じ1階で住み分ける方法は？と考えた結果、女の子は私の部屋で寝てもらい、男の子は食事を使う居間を使ってもらう事にしました。(居間の男の子は食事時には布団を片付けなければならず、少し可哀想でしたね！)

さて、女の子のチェ・ヘリさんは中学生の時から日本語を勉強しているようで、とても日本語が上手でした。私や友人の話す日本語をしっかりと理解し、男の子のチャン・インビン君に通訳してくれるので、「もう立派な通訳だね！」と皆で感心していました。

そのインビン君は小学生の時から英語をよく勉強しているようで、英語で話かけてきます。すると私の友人の石井さんが「英語なら私も少し分るから」と英語の会話が始まります。

こうして居間の中では韓国語、日本語、英

語が飛び交い「これが本当の国際交流だね！」と仲間たちと笑ったものでした。

仲間たちというのは、今紹介した石井さんに加え、ネットワークの仲間の市川延江さんや窪田みどりさんら 3 人です。この方々が車での移動や料理づくり、着物の着付けなど家族をあげて何から何まで世話をしてくれました。(仲間のありがたさが見に沁みた 4 日間でした。)

浴衣の着付けを手伝ってもらったのは窪田さんでしたが、浴衣を着せることになった背景にはこんないきさつがありました。ある時、女の子のへりさんが「日本の浴衣を買って帰りたいんです」と言ったのです。そこで、はたと思い出したのがタンスの奥深く置いたままになっている私と主人の浴衣のことです。私の浴衣は、なんと 50 年前の新婚の際に仕立てて以来、ほとんど袖も通さずに今日まで持ち続けてきたものです。

タンスから取り出した浴衣をへりさんとインビン君に窪田さんが着付けてくれたのですが、2 人ともよく似合っていました。もう私たちが着ることはない浴衣なので、お土産として持ち帰ってもらうことにしました。

ところで 2 人は、それぞれの家族写真を持



ってきて、1 人 1 人を詳しく説明してくれました。どんな家庭なのかを一生懸命に説明してくれる気持ちにホロリとさせられたものです。

2 人は「私たちの事を忘れないで下さい！」と自分

たちの写真を我が家に残して帰国して行きました。

私には可愛い孫が 5 人いますが、今は孫が 2 人増えて 7 人になったような気がしています。

決してへりさんとインビン君のことは忘れませんからね…また我が家を、ぜひ訪ねて来て下さい。(キダリゴ イッソヨ!)

あなた方が成長した暁には、韓国の良き市民に、そして日本の良き友人になってくれるよう願っていますよ。



광주학생들
나라여행은
재미있었던가?

光州学生たち
奈良旅行は
面白かったか
い?



2) 栄光の百済残影紀行の実施

今年の2月から半年間にわたって日韓交流史講座の百済編を展開し、その最後としてこの7月韓国に「栄光の百済残影紀行」を実施しました。日程は7月20日から24日までの5日間、25人が参加し好評のうちに終わりました。

2010 韓国訪問の年 記念
VISIT KOREA YEAR

主催：日韓交流史フォーラム
協賛：韓国観光公社名古屋支社
後援：名古屋国際センター

No	月日	都市	交通	時間	主要旅程	食事
1	7/20 (火)	名古屋	専用車	7:40	セントレア空港 旅客ターミナルビル3階 国際線出発ロビー チェックインカウンターA(大韓航空) 横の待合所 集合	朝 (×)
		仁川 ソウル		9:35	セントレア空港発	屋 (弁当/キンパフ)
				11:35	仁川国際空港着	
				12:30	空港発 ~ ソウル市内 (石村洞古墳群、可楽洞古墳群、夢村土城(歴史館)など)	
				17:30	現地講義：高麗大学校 金鉉球教授による講演 テーマ「木満致の謎と百済の係系官僚」 ※ 協賛 韓国観光公社 名古屋支社	夜 (韓定食)
				19:30	夕食 (ソウル在住会員と交流)	
宿泊：オリンピックパークテル ソウル市松城區芳夷洞 88-8 TEL 02-410-2114						
2	7/21 (水)	ソウル	専用車	7:00	朝食 ホテルにて	朝 (韓朝食)
		公州		8:00	ホテル発 忠南大学校 朴淳発教授により 公州 ~ 光州 地域案内	屋 (ソモリクッパ)
				10:00	公州：公山城、新官洞石室古墳、宋山里古墳群(武寧王陵) 公州博物館	
				15:00	扶余：陸山里古墳群、定林寺、宮南池 夕食 (李夕湖 教授 と 交流)	夜 (韓国式ぶき料理)
宿泊：百済観光ホテル 忠南扶余郡扶余邑双北里 433 TEL 041-835-5252						
3	7/22 (木)	扶余 全州	専用車	8:30	ホテル発 扶余：王興寺、大鳥寺 昼食	昼 (全州ビビンバ)
		益山 金堤 光州		13:00	益山：弥勒寺、王宮里遺跡 金堤：碧骨堤、 光州：月桂洞古墳群(前方後円墳) 夕食 (光州 YMCA 幹部 と 交流)	夜 (YMCA の 招待)
宿泊：ヒデインクコンチネンタル観光 光州市東区不老洞 160-1 TEL 062-227-8500						
4	7/23 (金)	光州	専用車	7:30	朝食 ホテルにて 日比谷高校 武井一教諭による案内	朝 (ホテル)
		咸平 靈光		8:30	ホテル発 咸平：月也里礼德里 新徳古墳(前方後円墳) 靈光：法聖浦 昼食 光州弁護士会 姜幸玉氏 と 交流	昼 (イシモチ料理) 姜幸玉氏の招待
				13:30	高敞：支石墓群(世界文化遺産) 瑞山：修徳寺 夕食 (仁川・共和春 032-765-0571)	夜 (韓国式中華料理)
宿泊：ベニキア・松島ブリッジホテル 仁川市延壽市松島洞10-2 TEL 032-210-3000						
5	7/24 (土)	仁川	専用車	7:00	朝食 ホテルにて	朝 (バイキング)
		江華島		8:00	ホテル発 仁川市内：旧日本人街、中華街 江華島：草芝鎮、鼎足山城(法燈寺)、高麗王宮、支石墓群	昼 (硫黄アヒル燻製)
				17:00	仁川空港着	
				19:00	仁川国際空港発	夜 (×)
				20:45	セントレア空港着 入国後 集合の後、解散	
現地旅行社：韓世邦旅行(グローバルツアー)						



栄光の百済残影紀行 参加者の感想文

百済史跡巡り

会員 大嶋 明

昨年8月の伽耶紀行に続き今年も百済紀行に参加させていただきました。前回同様、百済の概要・時代背景・日本と百済の係わり・文化などについて事前の講義(全5回)で予備知識を得ていたこともあり、どの地を訪ねても何となく「親しみ」を感じました。よく工夫された無駄のない旅程に従って、古墳群や山城の遺跡、寺院、街並みなど百済ゆかりの場所を巡り歩く毎日はワクワクの連続でした。百済の旧都だった「公州」と「扶余」を訪ねた時は、百済研究の権威「忠南大学の朴淳発教授」に同行いただき、迫力ある熱のこもった解説に引き込まれ、思わず百済時代にタイムスリップしたような気持になりました。どの訪問地も百済の盛衰を偲ぶのに十分な魅力に溢れていました。個人的には武寧王(第25代、在位501~523年、旧都漢城を高句麗に奪われ、公州に遷都して見事に国を再興した英雄)の王陵などを見学できたこと、韓国ドラマ「薯童謠」の主人公武王(第30代、在位600~641年)の遺徳を偲ぶに足る王興寺や扶余の町の静かな佇まいを体感できたことで大満足です。

もうひとつ、この旅行で忘れられないのは各地で味わった美酒と料理の数々です。酒で

は「土地ごとに味が違うと言われるマッコリ、それも本当に旨いのは生マッコリだ。」と聞き、すっかり生マッコリファンになりました。料理では「ドラマで見た硫黄アヒルの燻製」と「韓国一美味しいと言われる霊光地方のクルビ(イシモチの干物)を賞味することができました。



次回の旅もぜひ参加したいと考えている。

百済紀行を歩いて

会員 李 純子

梅雨明けの暑い中、勉強づけの中身の濃いハードな旅でした。一方で食事が大変、美味しかったです。食べたことのないアヒル料理や牛の頭のスープ、それに本場の霊光クルビ(イシモチの生干し)等々、バラエティー



に富んだメニューで、旅行中は頭もお腹も一杯になりました。

こんなことも印象に残っています。山城への車道が細くて、バスが登れなくなった時のことです。後藤さんが直ちにタクシー2台を呼び寄せ、全員をピストン輸送して、山城見学という目的を無事、達成しました。緊急時をしのいでゆく機転の良さにさすがと思いました。

ご一緒した皆さんにも、いろいろ教えてもらいました。とりわけ同じ在日で、物識りのチョン(鄭)さんには、なにくれとなく、詳しく解説してもらって大感謝です。話を聞きたび「私も、もっと歴史を知らねば!」と思ったものです。

また、最年長の女性山下さん(85 才)が、ゆっくりと着実に歩いていらっしゃる姿を拝見しては、いつも励まされ、力を頂きました。

ところで、マッコルリの効用も特記しておきましょう。今回の旅でマッコルリブームが起きて、いつもはちょっと気取って大人しそうに見える人たちが、意外にきさくに打ち解けていただき、すぐ仲良くなれました。マッコルリ外交もいいものだなと納得したところです。

最後の夜は仁川で造成中の新都市地域に泊りました。ホテルのサービスのワンドリンクを飲むため「ミーティング」と称して最上階

のバーに集ったのですが、眼下に新しく造られた空港島までの海上高速道や、新築ホヤホヤのビジネス棟群の灯りが、星座のように煌めき、湧き上がるような韓国のパワーも実感することができました。

常任講師の武井一さんにはソウル以後、いろいろ教えてもらいました。これからも一杯教えて頂いて（若くないので、落ちこぼれにならないように）頑張りたいと思います。ご指導よろしくお願ひします。次の新羅の旅は来年 2 月とあって寒いので、体調を整えて準備したいと思います。

パナマ帽の影で思う古（いにしえ）を

栄光の百済・吟行の旅

青田風
伊藤みつ子
汗拭ひマイク片手の朴教授
山裾に百済石塔青田風
宮南池蓮花祭の鼓の響き
菩提子のたわわや仏教渡来の地
石首魚の干物香ばし韓の宴



夏の蝶
山本玲子
陵を巡りはなれぬ夏の蝶
古里の石首魚自慢接待主
草茂る山城跡の四神旗よ
白蓮の白の濃淡極まれり
マツカリで今宵また汲む韓人と

王陵へ登る

高橋孝子

王陵へ登る総身に汗たらし
学生の日焼けの笑みや発掘場
支石墓の巨岩ごろごろ雲の峰
弥勒寺の木道きしむ音暑し
屋上に南瓜畑や倭人街



茨隠元

中根多子

韓人の古墳の柵に茨隠元
支石墓を囲みなでしこ実となれり
桑花芽高麗人参畑つゞく
屋上の野菜畑に花南瓜
えい刺身食む韓の家の夏座敷



初とんぼ

山下智子

山城の石塁に落つ汗しずく
さみどりの子の土饅頭ささげ畑
草原に百済石塔初とんぼ
韓寺の虹色の魚鼓雲の峰
暑気払ひ焦げしあひるの骨かじる



硫黄アヒルの燻製料理





八千草

さとうあきこ

八千草に跳ぬるかささぎ古墳道
片蔭に講師の一服タバコかな
遠近に蓮の花揺る宮南池
日本語とハングル交はし鰻食ふ
高句麗の石塔の裾蟻蚶飛ぶ



伊藤義郎

王陵と云へど災帝容赦なく
山城に鬨の声なし蝉しぐれ
とりあへず冷しマッコリ韓料理
睡蓮に薯童・善花の恋の影
金堤路や一望千里青田波

「栄光の百済残影を巡る」旅・・・松尾博雄・由美子

日本の古代に大きな影響をあたえた国百済、その古跡をめぐる旅に私達は大きな期待を抱いていました。この春 2 月から始まった百済と倭国に関する 5 回に亘る講座を受講し、基礎的な知識を勉強していただけたに、実際に百済故地を見て廻ることにあれやこれやと楽しい想像をしていたのです。暑い 7 月でしたが、参加者全員元気に行動を共にすることができ充実した 5 日間でした。

今回の視察旅行を企画して戴いた後藤さんをはじめ、お世話いただいた皆様にまず厚くお礼を申し上げます。特に現地の遺跡などで熱心にご説明いただいた忠南大学教授の朴淳発先生、「木満致の謎と百済の倭系官僚」としてご講演いただいた高麗大学校名誉教授の金鉉球先生には、お忙しい中わざわざ時間を割いていただき、心から感謝する次第です。

私達はこの日韓交流史講座では 2 回目の参加で、顔なじみの皆様も増えて随分親しくさせていただき、5 日間はあっという間に過ぎましたが、思い出もいっぱいの内容の濃い旅行でした。皆様には紙面をお借りしお礼申し上

げます。

百済は漢江南岸にあった漢城時代の前期（～475 年）と 475 年高句麗に漢城を落とされ蓋鹵王が戦死して南に逃れ、現在の公州市の熊津に都を移した熊津時代の中期（475 年～538 年）、さらにこの時代東城王、武寧王等により王権の拡張と南方への領土の拡大が計られ、聖王の代になって都を泗沘に移した後期（538 年～660 年）とに分けられます。今回の旅路は百済が歩んできた時代経過に沿って組まれたものでした。第 1 日目は前期漢城時代のソウルの古墳群や山城、土城を巡りましたが、大都市の中であってよく整備保存されていたのが印象的でした。

2 日目は、途中朴先生と合流し百済注記の宋山里、陵山里の古墳群や公州山城、定林寺など先生の丁寧な説明を受けながら回りました。なかでも公州博物館の武寧王陵の遺品などの展示は圧巻でした。3 日目に入って引き続き朴先生の説明のもと、扶余の聖興山城・王興寺、益山の弥勒寺、光州の前方後円墳など百済中期・後期の古寺・遺跡をびっしり詰まったス

ケジュールに従って見学しました。日本の飛鳥寺との関係が伝えられる王興寺の遺跡調査や韓国の最古最大の石塔をもつ益山弥勒寺の発掘復元事業の今後が興味津々です。

夜、光州YMC Aのご招待による交流夕食会があり、韓国の人達のあたたかい心にも触れることができました。旅程も4日目になり、前日訪ねた光州の月桂洞古墳につづいて咸平の月也里古墳（前方後円墳）を見て仏教伝来の地、靈光の法聖浦へ。午後からは一路仁川をめざして、途中瑞山の修徳寺に立寄りしました。こうして旅は順調に最終日となり、早朝から仁川市内の旧日本人街は江華島の伝燈寺、さらには支石墓群などめぐり、夕刻には仁川空港に着きました。

今回の講座旅行は訪問地が一杯詰まった盛りだくさんの旅でしたが、古代百済が辿った時空間を短時日に縮めて移動し、直接肌で感じる事が出来たわけであり、机の上での理



解だけでは味わえない貴重な体験でした。また、紙面の都合上記することができませんでしたが、素晴らしい韓国料理とマッコリの旅でもありました。これからも機会あるたびに思い出し話し合うことでしょうか。ありがとうございました。

こぼれ話を少々・・・中林速雄

3日目、金堤の博物館で、畳3枚分はありそうな大きな旗が展示されているのを見ました。

一面大きな龍の絵——どうやら雨乞いの願いが叶って奉納したもののように、右下が「寄贈・郭安綯・所願成就」とあります。左には大きな字で「農者天下之大本也」そして下の余白にはこう書かれていました。「三日一両・夜雨昼晴」思わず笑ってしまい温かい気持ちになりました。三日おきに雨が降り、それも夜降って昼間は止んでほしい——農民の願いはどこでもいつでも同じです。

その日のうちに光州に入りました。生まれ育った慶尚南道の伽耶と違って、全羅道には縁のなかった私ですが、光州という都市の名には大いに関心がありました。

軍政時代、民主化運動を弾圧された悲劇の舞台として、また滞在中の東京のホテルから韓国の秘密機関に拉致された後九死に一生を得て、その後遂に大統領になることができた金大中の生地として——。

しかしその夜はYMC A幹部との交流食事会、翌朝はすぐバスで移動ということで、「現代史」の光州とは無縁に終わりました。ところが！

帰国した翌日「HV特集・光州事件」の再放送があったのです。もしこの番組を生に見ていれば、せめて、立て籠った市民が銃撃の犠牲になった全羅南道の旧道庁含め、朝早くから独りででも行ってみるぐらいのことはし

たかったのに——。

後で聞くと、何とそこはホテルから歩いて行ける近さだったそうです。

最終日の朝、仁川で興味深い場所に案内されました。今は国際空港としての方が有名ですが、ここは昔も今も海の玄関口、釜山と並ぶ貿易港です。百済の歴史からちょっと離れて、明治時代の日本と清国の租界の跡を見に行きました。

面白い事に塚道の片側が日本の、反対側が清の租界で、そちらはずっと中国人街として続いており、中華料理の店が並んでいます。日本側は何軒かの家屋が和風の趣きが残っている程度です。

さて坂を上り切って更に歩くと、花壇の美しい公園がありました。ガイドさんによると、ここはメッカダー記念公園とのこと。「皆さん、この名前分りますか。年配の方なら誰でも御存知のはずですよ」と云われてもハテナ。笑いながら種明かしされたのがマッカーサーです。

なるほど公園の奥に將軍の銅像がありました。サングラスにパイプを銜えた姿ではありませんが、軍服姿で仁川港を見下ろしていました。

私達には、日本占領の親玉、戦後数年間の絶対権力者というイメージしかありませんが、国連軍総司令官として朝鮮戦争当時、危うく北朝鮮軍に全土を蹂躪されそうになった韓国



を、北が予想もしなかった仁川上陸作戦で戦況を逆転させた英雄として、今も韓国では感謝されている存在なのだと、改めて認識させられました。

それにしても、マッカーサーが何でメッカダー？これは参加者の一人で春日井市民の実業家鄭禧昇さんに教えてもらったのですが、韓国人は英語の「th」を日本人のようにス

(ズ)とは発音せずドウと発音するのだそうで、マックは英語に近くメック、それでメッカダーとなるのだそうです。ついでに言えば、マクドナルドはメクダーノル、サッチャーはデッチャーだとチョンさん笑って教えてくれました。

最後にもう一つ、慶尚南道の伽耶と違って百済の故地には関係のないわたしですが、私の中で流れる血には、もしすると百済人の血も混じっているかもしれません。一重瞼で胸毛も脛毛も無いのは、まさに朝鮮系（歴史的呼称として使っています）民族の身体的特徴ですから。父が岡山、母が大陸出身の我が家の系図は、せいぜい戦国時代までしか遡れませんが、もしかすると私は、白村江で完敗して滅亡後、大挙して大和に渡来し帰化した百済の末裔かもしれません。

とすれば、今回の現地セミナーも遠い祖先に導かれての旅だった——と思うのも、悪くない気分なのです。

マッコリ旋風に乗って 井ノ口俊子

昨年、日韓交流史講座の受講を機に日韓市民ネットワークに入会して2年目になります。昨年の伽耶紀行では古墳群のある丘陵地を登ったり下ったりずいぶん歩きましたので、今回の百済紀行のためにウォーキングシューズを新調し、足慣らしをして当日に備えました。さいわい、携行したアンメルツやバンドエイドの出番もなく無事に過ごすことができました。とはいえ今度もまた登山かワングルかと思うほど歩く歩く登る下る……。なのにこのグループは何という健脚老人集団なのでしょう。私はただもう遅れないように足を運ぶだけで精一杯でした。しかも中身がとてつもなく濃い！古墳、寺跡、城跡、博物館に資料館……。



1年前まで古墳に縁のなかった私は、家に帰ってからメモと写真を見てもこれはどこの古墳だったっけ、てなありきまで、頭の中が全然整理できませんが、いちばん印象深かったのは扶余の聖興山城です。急勾配の石段をあえぎながら登りきった頂上にはケヤキの大樹が緑陰をなし、思いがけない涼風は百済人からのプレゼントだったかも。眼下には錦江、そして360度の眺望を実際に見てここに山城を築いた意義を実感し、「現場を見ることの重要性」という武井先生の言葉が涼風とともに臍腑にしみわたりました。この旅行の目玉のひとつが現地の先生方との交流。朝5時起床の初日の夕刻から金鉉球先生の「木満致」とは、恐れながら睡魔との闘い。でも鉉球先生はテレビで見たのよりずっと親しみやすい好漢。公州から

光州を案内して下さった朴淳発先生、ソフトで聞き取りやすい日本語の合間に、数字などたまに中国語の発音も。扶余の夕食の席には、司馬遼太郎の『韓のくに紀行』に登場する李夕湖先生が現れ瘦躯からほとぼしる大音声で熱く熱く百済を語ることに、司馬の描写そのままでした。光州ではYMCAのご招待による夕食会。交流した幹部の何人かは光州弁護士会副会長の姜幸玉氏を始めとする弁護士さんたち。個人的には少壮気鋭の弁護士先

生を相手に韓国語の実戦トレーニングを体験する光栄に浴し、本旅行のハイライトとなりました。

晴れ男晴れ女の集団なのか、ずっと好すぎる天気恵まれましたが、なぜかわれらが頭上にはマッコリ旋風が吹き来たり、行く先々で昼時も夕時もその土地土地の個性豊かなマッコリの瓶が卓上に林立し毎日がさながら

「どぶろくまつり」ならぬ「マッコリまつり」の様相を呈しておりました。おかげで酒代が予算枠を吹き飛ばし、車中奉加帳が一巡する仕儀となりましたが、思えばこのマッコリこそが、旺盛な探究心と健脚を誇る一行メンバーのエネルギーの源泉だったにちがいありません。この勢いで来年も！



栄光の

百済



残影紀行



お知らせ

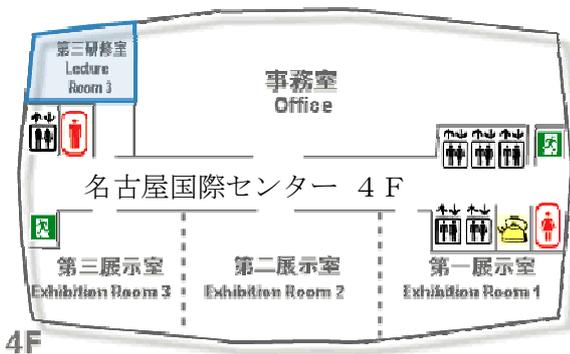
① 日韓交流史講座～黄金の新羅編の実施

伽耶シリーズ、百濟シリーズに続く日韓交流史講座の第3弾としてこの10月から6回にわたって行います。

日韓交流史講座 Ⅲ ～ 黄金の新羅シリーズ ～

日韓交流史フォーラム

	日時	名古屋国際センター	講師	テーマ
1	10月31日 (日) 10:00 ～	第三研修室 (4F)	日比谷高校教諭 武井 一	新羅の誕生と全国統一
2	11月28日 (日) 10:00 ～	第二研修室 (3F)	九州歴史資料館長 西谷 正	新羅古墳と日本の古墳文化
3	12月19日 (日) 13:30 ～	第三研修室 (4F)	国学院大学教授 鈴木 靖民	正倉院などに見る新羅文化の影響
4	1月23日 (日) 10:00 ～	第二研修室 (3F)	日本大学教授 梶川 信行	万葉集と新羅
5	2月9日(水) ～2月13日(日)	新羅の故地 各地を紀行	慶北大学教授 朴 天秀	黄金の新羅残影紀行
6	3月20日 (日) 10:00 ～	第二研修室 (3F)	日比谷高校教諭 武井 一	新羅 亡国への道



■ JR・名鉄・近鉄名古屋駅から東へ徒歩10分程度
地下街「ユニモール」を直進していただくと、地下鉄桜通線
及び名古屋国際センタービルの地下とつながっています。
「国際センター駅」(財)名古屋国際センターへは
ビルの低層階エレベーターをご利用の上お越しください。
地下鉄桜通線「国際センター」駅下車すぐ
名古屋国際センタービルの地下とつながっています。

② 韓日歴史フォーラムの講演会



日韓交流史講座、新羅編の2回目を担当していただく九州大学名誉教授の西谷正さんに下記の講演もお願いしてあります。ソウル大学に留学し日韓交流の考古学の第一人者といわれる西谷さんの興味あるお話です。

ぜひお出かけ下さい

日時：11月27日(土) 18:00～

場所：愛知韓国人会館5F 講堂

内容：古代愛知に見る渡来系文化

入場：500円の入場料が必要です。

서울 소식



ソウル便り

韓国ソウル市在住 坂野慎治さんのソウル便りです。
韓国 在住生活を基盤として幅広くご活躍されてます。

韓国ソウル在住 会員:坂野慎治

(梨花女子大学・通訳翻訳大学院講師)

◎ ギャンブル依存症

韓国では最近、ある芸能人が海外で賭博をし、外国為替管理法に違反した疑いが持たれています。この芸能人は、2005年にも賭博で問題になったことがあります。

ギャンブルのない国はないでしょうが、韓国文化観光研究院の2008年の報告書によりますと、韓国が世界でもっともギャンブル依存症が多いと言うことです。この報告書では「賭博によって問題を起こしたことがある」という基準で「賭博中毒」と判断しており、韓国は9.5%でした。シンガポールの4.1%、カナダの2.9%、オーストラリアの2.4%、さらにラスベガスがあるアメリカのネバダ州の6.4%と比べても多くなっています。同研究院は「韓国では、ギャンブルを遊びではなく金儲けの手段と考える傾向が強いため、中毒になる可能性が高い」と話しています。

韓国では現在、パチンコやパチスロは法で禁じられていて、韓国人の利用できるカジノも1カ所しかありません。そのため競馬や競艇、インターネットでの花札やバカラなどのカードゲームが主なギャンブルです。その中でもインターネットを利用したギャンブルは、いつでも手軽にできるため中毒性が高いと言

われています。また、インターネットを使い慣れている高校生や大学生に与える影響も心配されます。

そうしたネット上のギャンブルサイトは、2009年初現在1600以上あります。もちろんネット上のギャンブルも、ゲームとしてゲームマネーだけを使っていれば問題ないでしょうが、ゲームマネーを不法に現金に替えるサイトが多いのも事実です。

さらに、そうしたネット上のギャンブルサイトは、簡単には勝てないシステムになっています。例えば、ゲームマネーを現金化するのに10~20%の手数料がかかるので、ゲームをするだけで持ち金が減っていく計算になります。そうした手数料で4年間に100億ウォンを稼いだ疑いで、サイトの経営者が逮捕された事件もありました。

もともと韓国では花札などカードゲームをする人が多く、この旧盆にも親戚が集まって楽しんだ人もいるはずですが、そうした人たちをギャンブル依存症とは言わないでしょう。激しい競争社会では何でも勝つことが求められますが、ゲームはゲームとして楽しむ余裕が欲しいものです。

韓国の花札

花闘(ファトゥ・Hwatu)は韓国の花札です。日本の花札が、李朝(1392~1910年)の末期に伝わり、その後の日本統治時代(1910~1945年)に朝鮮全土に広まりました。朝鮮半島独立後には、日本文化の残滓として一時取り締まりの対象となりましたが、韓国では「三人集まれば必ず花闘をする」といわれるほど盛んに行われており、現在でも年齢や階層を問わず幅広く親しまれています。日本の花札との違いも若干見受けられ、花闘(ファトゥ・Hwatu)では、11月の雨札が12月、12月の桐札が11月として扱われます。



화투

●新会員紹介

松尾博雄	松尾由美子	金基玄	尾関章
宮崎邦夫	李聖民	許景九	瀬川照子



編集後記 (2010/09/25)

アンニョンハシムニカ？以前行ったことのあるグアムやサイパンにいるような猛暑が続いた今年の夏が終わり秋の気配が少し感じられるようになったこの頃ですが、会員の皆様、お元気ですか？

この暑い最中に光州学生訪問団を受け入れるイベントをいたしました。私も2人の学生たちのホスト役を受けることになりました。実はホスト役は今回が2回目です。1回目は会が始めて受け入れた1998年夏の大田（テジョン）学生訪問団でした。

その後、私は料理班等の裏方が忙しくてホスト役はできませんでした。思えば最近の日韓関係は12年前と比較するとずいぶんと変わりました。はじめのころは「近くて遠い日韓関係」と言われていましたが、その後、日韓ワールドカップ開催、韓流ブームなどで「かなり近くて近い日韓関係」になったことはとてもうれしく思っています。しかしまだまだ「日韓関係」は真の兄弟のような間柄にはなっていません。私の妻は韓国人です。結婚して15年経ちました。いわば日韓交流の実践者です。が・・・

良い点・悪い点、けっこう大変ですよ。どちらかという国籍とは反対に私が韓国的、妻は日本的です。おもしろいですね。私のことはちょこしおいといて・・・

実は、今回のホームステイの募集において統括幹事の後藤さんは大変苦労されたようです。以前のように簡単にホームステイを受入れる会員や支援者の方がいらっしやらなくなったことです。結局、私たち裏方がホストの主役をやらなければならなくなったこともこの会の歴史を感じます。

この現象は以前と比べ会員皆さんもお年を召され、色々な面でホームステイを受入れる環境ではなくなったことが原因ではないかと思えます。私自身も母が痴呆気味で事業・家庭・ボランティアとうまく立ち回れるか？少し心配もあります。

この会を立ち上げた時、50代中心の会員や幹事も今や60～70代になってしまいました。この会もそろそろ寿命かな？と他の幹事の皆さんと話し合ったりもしましたが・・・

せっかくここまで築き上げた日韓市民ネットワークなごやです。

市民中心の日韓交流でこんなにも長く続いた会は全国を探しても一つしかありません。ここまでくると愛着もあります。・・・いままで築いてきた人脈という資産もあります。・・・

もったいないと思いませんか皆さん？・・・

私は今までのような形はできないとしてもできる範囲のことでの「日韓市民の交流」は十分できると考えます。

事実、私は苦手なほうですが歴史文化の勉強会や歴史を通した「日韓交流」は以前より盛んです。新しい形での「日韓市民交流」はもうすでに第二幕が始まっているのです。

如何でしょうか？・・・この会員の皆様がいる限り、後藤統括幹事ががんばっている限り私も事情が許す限り会の後方支援をする覚悟でいます。

長い間この会を応援して下さった会員の皆様、民団社会の中で初めて民族教育の為に韓国学校を創立した我々の名誉会長鄭煥麒さんや尹大辰前校長をはじめ多くのご支援を頂いた皆様、本当にありがとうございます。改めて感謝を申し上げます。

今後も日韓市民ネットワークなごやを宜しく願います。

編集長&ホームページ管理者 中川 修介

Mail:webmaster@nikkannet.jp